

妊娠初期の女性が
風しんにかかると、
生まれてくる赤ちゃんが

「先天性風しん症候群」になる確率
妊娠1ヵ月で
50%以上[※]

この数字は、免疫のない女性が妊娠初期に風しんウイルスに感染した結果、病気を持った赤ちゃんが生まれる確率です。耳が聞こえにくくなる、目が見えにくくなる、心臓に病気がある、発達がゆっくりしている。これら『先天性風しん症候群』は、妊娠「前」の予防接種で防ぐことができます。未来の赤ちゃんのために、まずは風しんの抗体検査を。

※母親が感染した妊娠月別の先天性風しん症候群の発生確率は、妊娠1ヵ月で50%以上、2ヵ月で35%、3ヵ月で18%、4ヵ月で8%程度である。出典元：国立感染症研究所



妊娠前の女性は

「風しん」の予防接種を
ご検討ください。

接種後2ヵ月は避妊が必要です。
2回の接種でより確実に先天性風しん症候群を予防できます。

ポイント 1 近年の風しんは成人に多く見られ、平成25年には20代から40代の年齢層で男性を中心に風しんが流行しました。



成人男性は

●風しんにかかったことがない方
●風しんワクチンを受けていない方
●どちらも不明の方
接種をご検討ください。

2回接種しても問題ありません。

ポイント 2 特に昭和54年4月2日～平成2年3月31日生まれの男女は接種率が低く、昭和54年4月1日以前生まれの男性は子どもの頃に定期接種のチャンスがありませんでした。



妊娠中の女性の家族は

「風しん」の予防接種を
ご検討ください。

妊婦は風しんの予防接種を受けられません。
1歳児（第1期）と、小学校入学前1年間（第2期）は麻しん風しん混合ワクチンの定期接種を受けましょう。

ポイント 3 風しんの予防接種は、はしか（麻しん）も一緒に予防できる麻しん風しん混合（MR）ワクチンで受けることをお奨めします。

予防接種の必要性は、抗体検査でわかります。

今、未来を想うカタチ。風しんの抗体検査。

現在、多くの自治体では先天性風しん症候群の予防のために、主として妊娠を希望する女性を対象に、風しんの抗体検査（免疫の状態を調べるための血液検査）を無料で実施しています。風しんの抗体検査の実施状況については、お住まいの地域の保健所までご相談ください。抗体検査をして抗体価が低かった場合、予防接種をご検討ください。

【お問い合わせ先】厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口 TEL.03-5276-9337
受付時間：午前9時～午後5時（土・日・祝日、年末年始を除く）

風しん 厚労省

検索